

安全・安心部会

◇ 部会の経過

日 時 ・ 場 所 等	内 容
第1回安全・安心部会（第4回市民会議） 平成24年4月18日（水） 18：30～20：30 野幌公民館 ホール	マトリックス（縦軸にハード・ソフト・ハートづくり、横軸に短期・中期・長期）に第1回～第3回市民会議で出された意見を整理。
第2回安全・安心部会（第5回市民会議） 平成24年6月2日（土） 15：00～17：30 野幌公民館研修室3号	高砂地下歩道整備の経緯を事務局から説明。危機対策・防災担当職員から現在の取り組み状況について説明。 第1回部会で整理したマトリックスをもとに、まちづくり政策・戦略テーマを検討。
第3回安全・安心部会（第7回市民会議） 平成24年7月28日（土） 18：00～20：45 市役所西棟会議室1号・2号	第6回市民会議（全体会議）での意見交換を踏まえて、まちづくり政策・戦略テーマをさらに議論。意見の絞り込みを行い、戦略テーマを決定。 危機対策・防災担当出席。
第4回安全・安心部会（第8回市民会議） 平成24年9月2日（日） 13：00～16：00 市役所西棟会議室1号・2号	まちづくり政策・戦略テーマを提言書にまとめるため、第3回部会の結果をもとに作成した提言書のたたき台について議論。

◇ 部会委員の構成

氏 名	所 属 ・ 職 名 等
佐々木 貴子	部会長・有識者委員 北海道教育大学札幌校 総合学習開発専攻 教授
石 栗 和 典	市民委員
梶 井 正 夫	市民委員
高 橋 美 香	市民委員
中 村 紘 子	市民委員
山 崎 悟	市民委員

◇ 部会長報告（議論の概要や方向性、部会の想いなど）

安全・安心部会では、子どもも大人もお年寄も障がい者も、すべての人が安全で安心に暮らしていけるまちにするにはどうすればよいか、ということから議論が始まった。東日本大震災や近年の集中豪雪の影響で、防災や除排雪に関する意見が多く出された。また、環境への配慮から自転車利用者が増加しており、自転車対策についても議論があった。

そこで、部会としては『未来に向けた安全・安心なまち江別』をテーマに、防災・交通安全・防犯の観点で『災害に負けないまちづくり』・『マナーと思いやりで事故のないまちづくり』・『安心して暮らせるまちづくり』の3つを戦略テーマとした。除排雪についても当然、市が取り組まなければならない問題ではあるが、雪国では避けることのできない問題であり、江別市が他市に比べて特別劣っているわけでもないことから、戦略テーマにせずまちづくり政策の中で整理した。

議論の中で関心が高かったのが、現在整備中の高砂地下歩道についてであった。地下歩道は防犯上問題があり、必要性も低いため事業を中止できないのか、あるいは整備した後の防犯対策をどうするのか、といった点に関心が集まった。事業についての説明を受けたところ、北海道の事業であることと、地域住民からの強い要望で整備するに至ったという経緯であったが、このことから2つの方向性が出てきた。

1つは、北海道と市が関連する事業を実施する際に、もっと相互に連携を強化していく必要があるということ。

もう1つは、新たに大きな事業を実施する際には、地域住民だけではなく市民全体に情報を提供してほしいということである。子どもから大人まで幅広く市民の意向を聴取する機会を設けて、市民の理解が得られたところで事業を実施すべきである。

また、単に行政任せにするのではなく、行政と対等に議論できるように市民もまちづくりに関心をもって参画していかなければならないし、特に防災や防犯は地域住民等と行政が協働で取り組んでこそ真価を発揮する。

これからの安全・安心なまちづくりに向けて、行政がもっと広く市民の意見を取り入れる仕組みをつくるとともに、市民の自治意識を向上させ、市民と行政が協働で取り組んでいかなければならない。

1. まちづくり政策提言

～ 安全・安心分野におけるまちづくり全体の方向性（マトリックス図参照）

（１）短期的な取り組み

ハード	① 耐震化の推進 (例. 学校の早急な耐震化または建て替え、避難所の早急な耐震化と現在の安全性の公表) ② 避難所の充実 (例. 雪捨て場となる公園とは別の冬の避難所、冬の災害に備えた暖房とトイレ、地区の人口にあわせた避難所、高齢者に配慮した避難所、障がい者に配慮した専用の避難所、マンションやビルなど頑丈な建物と協定を結んで避難所として指定) ③ 備蓄資材の充実 (例. 小学校の空き教室を利用した防災資材の備蓄) ④ 防災マップの充実 (例. 食料や毛布の備蓄状況、水害発生時の現実的な避難場所、建物の耐震強度・集中豪雨で浸水する場所、液状化現象がおきそうな場所、活断層の情報、事故が多発する場所などの記載) ⑤ 洪水対策の充実 (例. 豊幌地区の洪水対策、浸水の可能性が高い地域の避難体制と避難基準の明確化) ⑥ 一次救命の充実（消防・救急の充実） (例. AED の設置・活用、文京台地区への消防車の配備、消火栓のきめ細かな除雪) ⑦ 交通安全のための体制づくり (例. 警察との連携、大学生の多い大麻地区の自転車対策をモデル地区として実施、歩道に自転車通行ができるかどうかわかる看板の整備)
ソフト	① 防災体制の強化 (例. 危機対策・防災担当の組織強化、民生委員の充実、自治会との連絡調整や市民の相談に対応する（仮称）市民支援課の設置、インフルエンザ・竜巻など様々な災害を想定した備え) ② 防犯対策の充実 (例. 高砂地下歩道の防犯対策、子どもが安全に遊べるような公園の防犯対策) ③ 行政と市民の情報の共有 (例. 災害時要援護者の情報収集と関係団体との共有、地域の防災情報の共有) ④ 避難対策の充実 (例. 介護施設の避難に地域住民によるサポート、市外の人を対象とした避難誘導看板の整備、避難方法の手順の明確化) ⑤ 市民と行政の協働による安全・安心なまちづくりの推進

	(例. 市民意見を市の取り組みに反映していくため、市民への情報提供の仕方を工夫、市民の防災意識や行政への参画意識を向上させる取り組み) ⑥ 災害時の情報伝達 (例. 危険度に応じてサイレンの鳴らし方を工夫、メール・インターネットの活用)
ハートづくり	① 市役所の組織内の連携及び他の機関等との連携強化 (例. 消防との連携、警察・札幌開発建設部との連携、関連する事業を実施する際の北海道との連携) ② わかりやすい情報発信 (例. 市政だよりやホームページの充実) ③ 防災教育・防災訓練の充実 (例. 災害時要援護者を含めた市全体での避難訓練の実施) ④ 地域内のコミュニケーションを円滑にし、災害時の支援・連携を充実 ⑤ 自転車利用者のマナー向上 (例. 冬に自転車に乗っている高齢者対策)

(2) 中期的な取り組み

ハード	① 防犯機能付き街路灯の設置 ② 災害時の通信手段の確保 (例. 携帯等の不通に備えた掲示板などのアナログな通信手段の整備、要援護者への防災無線の整備) ③ 自転車道の整備 (分離歩道または自転車道)
ソフト	① 自転車利用者のマナー向上 (例. 自転車のマナー向上のための条例の制定)
ハートづくり	① 市民と行政の協働による安全・安心なまちづくり (例. 公共施設を市民と行政で協働で管理運営できる仕組みづくり) ② 自転車利用者のマナー向上 (例. 自転車道の活用の指導、自転車の乗り方指導) ※ 除排雪の充実を求める声が多かったが、除排雪については雪国では避けることのできない問題で、我慢が必要な部分もあり、市民と行政で話し合いながら、どこまで財源をかけて取り組むべきかを考えていく必要がある。

(3) 長期的な取り組み

ハード	—
ソフト	—
ハートづくり	① 安全・安心をPRしたシティプロモート (例. 消防のレスキューマン活用、公共施設の耐震化などを公表)

2. 戦略テーマ提言

戦略テーマ名	
未来に向けた安全・安心なまち江別 ～災害に負けないまちづくり	
どんな状態にしたいのか	
いつ起きるかわからない災害に備え、子どももお年寄も障がい者も、すべての人が安全に避難できるようにする。また、市民が日頃から高い防災意識を持つようにする。	
立案背景	
東日本大震災（H23.3.11）の発災により防災対策の早期改善が迫られている。江別市は昭和56年水害など大きな災害に見舞われた経験もあることから、高い意識をもつ必要がある。	
立案に関するデータ	
○ H23 年度実施 まちづくり市民アンケート結果（5,000 人対象） 将来の江別市のイメージ ⇒ 「事故や犯罪が少なく、災害に強い安全なまち」が 48.4%（第2位） ○ 江別市で主に想定される災害 ⇒ 地震と水害 ＜地震＞ 3 タイプの地震が想定される。（江別市耐震改修促進計画より） ①海溝型地震である「石狩地震」 市内全域で震度5強・5弱 ②内陸活断層である「石狩低地東縁断層帯主部の地震」 大部分の地域が震度6弱、一部の地域で震度5強 ③「全国どこでも起こりうる直下の地震」 市内北西部、北部、東部にかけた区域で震度6強、市内中央部から南部にかけた区域で震度6弱 ＜水害＞ 洪水ハザードマップ・・・市内を流れる河川が大雨（石狩川流域3日間の総雨量260mm）により堤防が決壊したと仮定した場合の洪水予想区域と水の深さ 【過去の大きな水害による被害（昭和56年8月）】 避難地区の範囲は、野幌・大麻の高台地区を除き全市に及び、1,526 世帯 5,314 人が避難。家屋の全壊、床上・床下浸水は 1,025 棟、農畜舎を加えると 1,910 棟。田畑の冠水・浸水は 5,509 ヘクタール。当時の被害総額は約 56 億円。	
戦略テーマ実現への方策	
【短期】 1 ハード 東日本大震災の発災を教訓として、耐震化・備蓄・防災資材の早期の対応が必要である。避難所である小中学校については耐震化または建て替えを行い、空き教室を利用した防災資材の備蓄を進め、さらに食料や毛布の備蓄状況を記載するなど防災マップの充実を図る。 災害時要援護者への対応も必要である。高齢者に配慮した避難所を指定したり、障がい者に配慮した専用の避難所も必要である。 また、冬期を考慮した避難場所の整備を進める。公園は冬期間に雪捨て場となるため、別な避難場所が必要であり、暖房やトイレの準備も必要である。 2 ソフト 危機対策・防災担当の組織強化を行い、災害時の自治会等との連携の強化・充実を図り、市民の防災意識や行政への参画意識を向上させる取組みを行う。さらに、避難所の耐震化の進捗状況や高齢者・障がい者等の災害時要援護者の状況など地域の防災情報の周知・情報の共有化に努める。 避難場所への誘導経路を標した看板を設置する。市民あるいは市外から来ている人でもスムーズに避難できるよう、特に幹線道路付近は避難場所への誘導標識を充実させる。	

戦略テーマ名

未来に向けた安全・安心なまち江別

～マナーと思いやりで事故のないまちづくり

どんな状態にしたいのか

自転車と歩行者の通行を分離した道路の整備と乗り方のマナーの向上により、自転車による交通事故のない安全なまちにする。

立案背景

エコの観点から自転車を利用したり、健康づくりの観点から歩いたりジョギングをする人が増えてきた。それにより自転車による重篤な事故が増加傾向にある。これからの安全なまちづくりに向けて、江別市も率先して自転車の交通安全対策の取り組みをしていく必要がある。

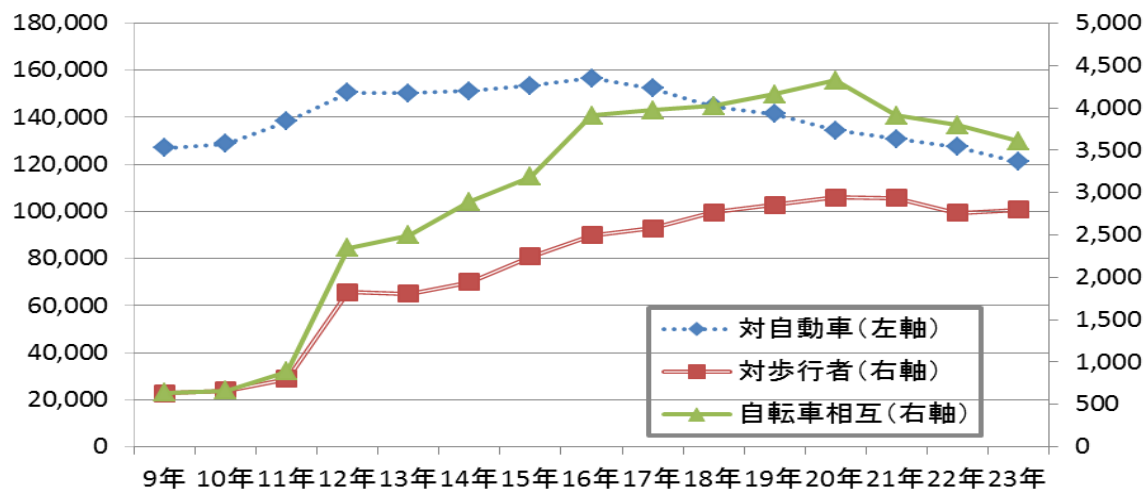
立案に関するデータ

○ 自転車保有台数推移・・・増加傾向（出所：（社）自転車協会資料より）

	平成 13 年	平成 20 年	台数／人口（H20）
北海道	2,511	2,834	0.5
全 国	65,052	69,100	0.5

（単位：千台）

○ 全国の自転車関連事故相手当事者別件数推移・・・対歩行者、自転車相互の事故が増加傾向（警察庁資料より）



（単位：件）

戦略テーマ実現への方策

【短期】

1 ハード

自転車が走ってよい歩道なのかがわかる看板を整備する。また、大学生の多い大麻地区をモデル地区として自転車対策を先駆けて実施する。

2 ハートづくり

冬の車道での自転車通行は大変危険であるため、早急に安全対策に取り組む必要がある。

【中期】

1 ハード

市内の道路に歩行者と自転車の分離歩道を整備、もしくは車道に自転車道を整備する。財政的に難しい場合はラインを引いたり、色分けするなどして歩行者と自転車を分ける。どのような整備を行うにしても、利用する市民の混乱を避けるために国道・道道を含めて全市的に統一して整備する。

2 ソフト

自転車マナー（乗り方）を徹底する手段として条例の制定を検討する。

3 ハートづくり

短期から中期にかけてのハード面の整備にあわせ、自転車マナー（乗り方）啓発や、整備された自転車道をどのように活用するか実際に使う市民の教育をしていく。

戦略テーマ名

未来に向けた安全・安心なまち江別 ～安心して暮らせるまちづくり

どんな状態にしたいのか

市民の防犯に対する意識を高めて、市民参加・協働による防犯活動を実践することにより、犯罪のないまちを目指すとともに、市民の自治意識の醸成も図る。また、市民協働を促すために市民への情報提供の仕方や市民意見を反映する仕組みを確立する。

立案背景

刑法犯認知件数は全国・全道において減少傾向にあり、江別市においても同様である。しかし、道内他都市と比較するとやや件数が多いことから、安全なまちのイメージづくりのために防犯にさらに力を入れていく必要がある。

現在整備中である高砂地下歩道の防犯対策を契機として、地域住民等との協働による新たな防犯対策に取り組んでいく必要がある。

立案に関するデータ

○ 刑法犯認知件数の状況

江別市の刑法犯認知件数推移（過去10年）・・・減少傾向

H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
2,394	2,064	1,727	1,641	1,502	1,284	1,355	1,202	1,120	1,001

道内他都市との刑法犯認知件数比較・・・江別市は8市の平均よりやや多い

指標名	調査年	単位	江別市	小樽市	北見市	岩見沢市	千歳市	恵庭市	北広島市	石狩市	平均
人口10万人あたり 刑法犯認知件数	平成21	件	985.4	671.4	694.6	879.0	1,268.3	1,099.6	889.2	1,106.2	949.2

○ 協働による防犯対策の状況

自主防犯活動を行うことへの負担感から、新たに取り組む自治会が増えない状況

	単位	H21	H22	H23
防犯活動を行っている自治会の割合	%	51.2	51.2	51.2

戦略テーマ実現への方策

【短期】

1 ソフト

新しく完成する6丁目踏切あとの高砂地下歩道の防犯対策が必要である。防犯対策は行政だけでなく、地域住民等との協働による取り組みで行う。具体的には、地下歩道を主に利用する江別高校の生徒や地域住民の協力により、地下歩道の空間の安全を守っていく、整備していく取り組みを行う。

また、江別市内には各地区に特徴のある公園があるが、それを積極的に利用するためにも子どもが安全に遊べるように公園の防犯対策を行う必要があり、これも地域住民と行政が一体となった取り組みが重要である。

【中期】

1 ハード

防犯機能付き街路灯を整備して犯罪を抑制する。

2 ハートづくり

前述の高砂地下歩道の防犯対策をモデルとして、公共施設を市民と行政が一緒になって協働で管理運営していく仕組みをつくる。行政がつくったものを行政が全て管理していくのではなく、利用する市民が一緒になって管理し、より良いものにしていく。

また、そのような仕組みづくりをきっかけにして市民自治の機運を高めるため、市役所に（仮称）市民支援課を設置し、まちづくりへの市民参加の支援や市民の自治意識の向上を図る。この組織の充実により協働参画社会の実現を目指す。